

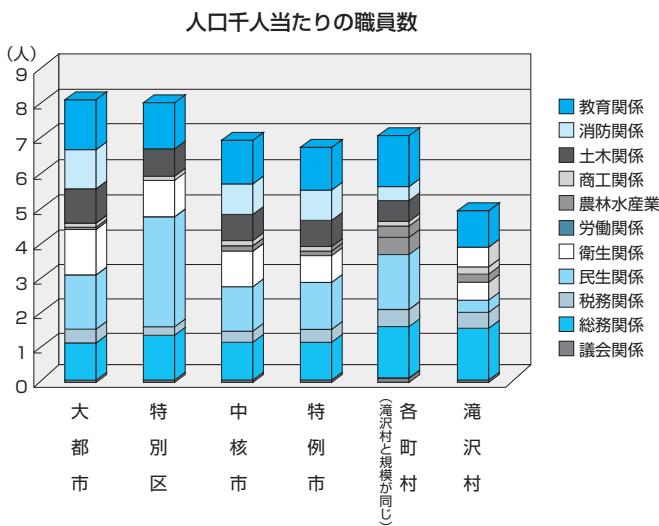


## Q 効率的な組織の体制は

### A 柔軟性が必要と感じる

Q1

報道によれば、村長は、「組織体制についてもさまざまに弊害等も出てきている。3年ぐらいのスパンをもって変えていきたい」と述べておられます。考えは。



▲ 17 年度類似団体別市町村財政指数表



鎌田 忍 議員 (新進)

A1

職員が病気休暇等の場合に業務の補完が困難であるなど、もっと柔軟性が必要であると感じています。限られた資源をより効果的に活用する体制が不可欠と考えており、問題がある場合は、常に改編してまいります。

### 部門別職員数の現状は

Q2

職員定数は、各部局からの積み上げを総務部門が査定して決定するのが一般的でした。この手法では、自らの存在の否定あるいは縮小を含む抜本的な組織の見直しは困難ですが、考えは。

A2

現在の職員数は、普通会計で250名、公営企業等会計が47名です。これから職員数については、「第3次定員管理計画」と組織の編成とあわせながら効率的な人員の配置を考えております。

### 自治会の規模の見直しは

Q3

自治会のあり方の提言書によれば、「自治会や町内会の規模はコミュニティを形成するため、会員同士の顔の見える程度が望ましく、面積・世帯数を考慮し見直しを図る」としていますが、考えは。

A3

以上規模が20自治会で、比較的規模の大きい自治会構成となっています。

自治会の分離は、会員の総意によるものであること、分離後は、主体性をもつて公益的活動ができるかということです。今後も引き続き注視してまいります。

## ○名称の由来

「しののめ」は漢字で「東雲」と表し、明け方、夜明けの空、あかつき、あけぼの等の意味です。転じて滝沢村議会にさわやかな明け方のような光をもたらすような会派でありたいとの願いを込めて「しののめ会」と命名しました。

## ○会派活動報告

19年度は24回の会派会議を実施し、様々な事案を協議決定しました。調査研修は8月28日から30日にかけて北海道千歳市議会と夕張郡栗山町議会で行いました。

## ○千歳市議会

議会中継配信システムについて調査。

本会議の様子をインターネットの生中継で見れるシステムであり、議員にとって、より高い意識が求められるものであると感じました。本村議会においても、今実験的に議会中継を試みつつあります。

## ○栗山町議会

議会基本条例、議会報告会について調査。

全国で初めて議会基本条例を制定した議会として名が知られ、視察要望が絶えず月に2回曜日を定めて視察を受け入れていて、当日も本村議会を含め6市町村議会合同の研修であった。議会報告会を年1回3月から4月にかけて12会場で実施し、より住民に近い開かれた議会を目指しているということであった。本年、本村議会でも村内団体との懇談会を行う予定です。

## ○20年度の調査研修予定

8月6日から7日にかけて、福島県三春町議会と東京都町田市議会を環境問題をテーマに調査研修する予定です。



構成メンバー〔左から〕

西村 繁 (副代表 監査委員)	黒沢 明夫 (代表 議会運営委員長)	武田 俊和 (幹事長 総務常任委員長)	熊谷 初男 (会計 教育民生常任副委員長)
--------------------	-----------------------	------------------------	--------------------------